

農業センター土づくり通信

第7号(発行:令和4年9月)【発行】旭川市農業センター

～ 土壌診断のススメ ～

昨今の世界情勢の影響を受けて、肥料価格が大幅に上昇しています。値上がりの影響を少しでも抑えつつ、生産性を保つためには、土壌診断による適正施肥が有効です。

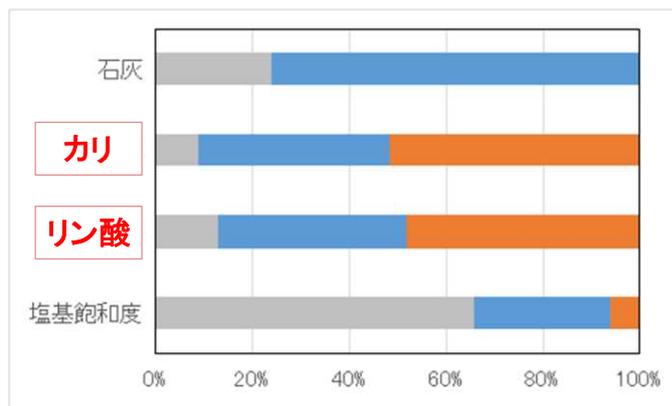
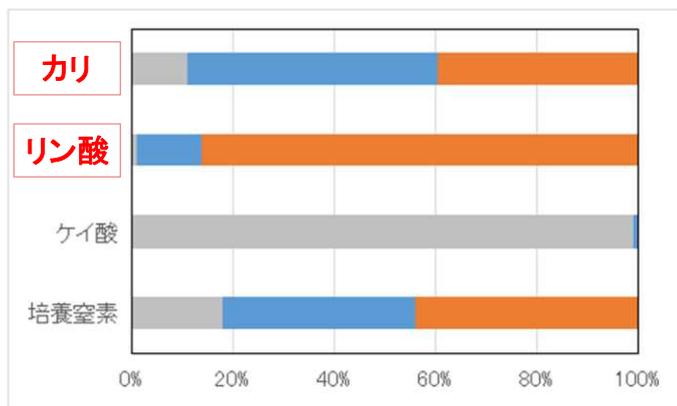
市内ほ場の土壌養分の傾向

令和3年度の土壌分析値(農協依頼分)から、基準値に対する過不足の割合を作付け別に示しました。

■ 基準値より低い ■ 基準値内 ■ 基準値より高い

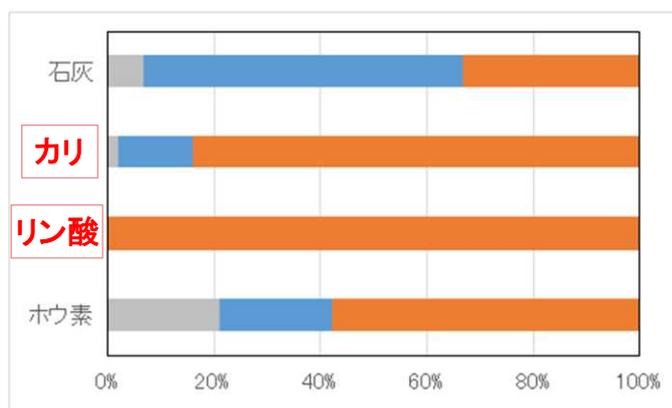
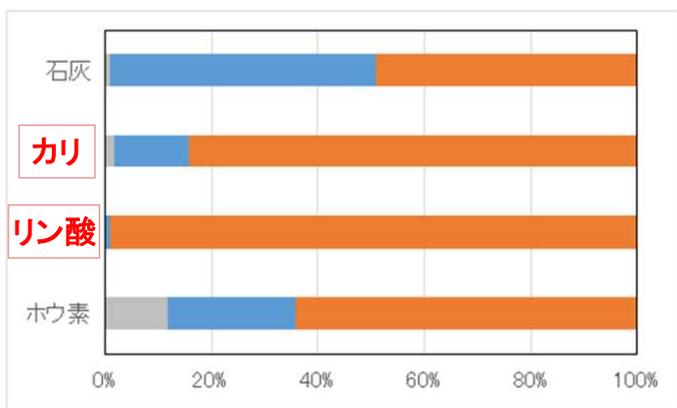
① 水稲(本田)

② 畑作



③ 野菜(ハウス)

④ 花き(ハウス)



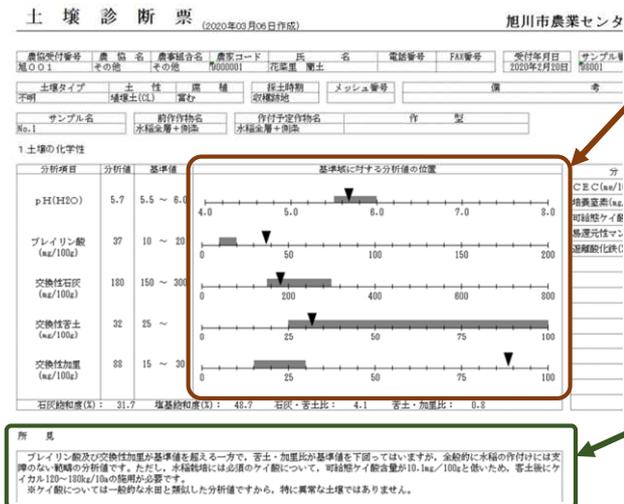
- 「カリ」・「リン酸」は多くのほ場で基準値を超えて蓄積しています。
- 水稲(本田)の「ケイ酸」は、ほとんどのほ場で不足しています。
- 畑作では「塩基飽和度」の低いほ場が多く、そのようなほ場の一部では pH も低い傾向(pH=5.5 未満)が見受けられます。
- 野菜・花きのハウスでは、「石灰」・「ホウ素」も蓄積傾向にあります。

土壌診断によって、施肥量の過不足を見極める → 適正施肥の取組

- 土壌診断に基づき、不足している養分は施肥により補給します。一方で、基準値を超えている養分は、減肥できる場合があるので、検討してみましょう。
- 減肥については、次のような対応例が挙げられます。
(例)・「カリ」と「リン酸」が過剰の場合 → 単肥配合又はカリ・リン酸含有率の低い肥料を選ぶ
・「ホウ素」が過剰の場合 → ホウ素やFTEを含まない肥料を選ぶ
- これら「適正施肥」を通じて、減肥によるコスト低減を図りましょう。

～ 農業センターの土壌診断の紹介 ～

農業センター「土壌診断票」の特長



<特長1>ほ場状態を一目で把握できる
肥料成分等の基準値に対する過不足を、視覚的に把握することができます。

<特長2>施肥対応に役立つアドバイス
上川農業改良普及センターが、分析結果に基づく施肥対応を、分かりやすくアドバイスします。

- 土壌診断の実施頻度は、**露地で3～4年に1回**、**ハウスでは毎年**が目安です。
- 肥料選びの際は、過去の診断結果を参考にすることも可能です。ただし、その後大幅に減肥した場合や、有機物を多量に施用した場合など、改めて土壌診断を実施する方が良い場合もあります。
- 土壌診断票の内容については、毎年1～3月頃に各地区のJAが開催する施肥相談会において、日頃の営農上の疑問等を含めて、普及員に直接相談することができます。
- なお、「**野菜・花き**」に係る相談は **農業センターでも対応可能** です。お気軽にお問い合わせください。

分析手数料

農業者は、より詳しい「**総合分析**」がオススメ!

● 総合分析(営農を想定した、化学性に関する総合的な分析)	1,170 円
● 一般分析(家庭菜園を想定した、必要最小限の項目の分析)	700 円

申込先

【地区別の各農協窓口に応じ込む場合】

農協及び地区名	受付窓口	所在地	電話番号
JA あさひかわ			
神楽・神居地区	神居資材センター	神居 1 条 10 丁目 3-7	61-4475
永山地区	永山資材センター	永山 1 条 19 丁目 3-5	48-9600
旭正地区	旭正資材センター	東旭川町旭正 36-2	31-0044
JA たいせつ(東鷹栖地区)	本所営農センター	東鷹栖 1 条 3 丁目 635-100	57-2357
JA 東神楽 (西神楽地区)	西神楽営農センター	西神楽南 1 条 2 丁目 639	75-4215
JA 東旭川	本所営農販売課	東旭川南 1 条 5 丁目 8-22	36-2115

【農業センターに直接申し込む場合】

旭川市農業センター (所在地:旭川市神居町雨紛 Tel:61-0211)
※ 野菜・花きの栽培に関する相談・施肥指導等にも応じています。皆様の御利用をお待ちしています。